



<2022年 7月号>

181号 2022.07.01 配信

最近、学校関係のニュースで「探究」という言葉を聞いたことがあると思います。以前から、現場では使われていたキーワードです。昨年は中学校、今年度は高校の新学習指導要領がスタートし、新たな科目名にも「探究」が加わりました。世界が変化するスピードはより速くなり、多様化、複雑化しています。予測困難な時代を生きるために、未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力を育てる学びが求められています。スマホですぐ答えを検索する生徒たち、卒業アルバムを作るときに初めてマスクを取った生徒の顔を見たという同僚の声。学校現場での課題は山積みですが、立ち止まらず、進んでいることは確かです。

(中学校・高等学校教職員ネットワーク)

■同窓会だより

◇2022年度幹事会 6月18日(土) 11:00~12:30 学園本部館 3階大会議室

坂東眞理子理事長・総長に出席いただき、新幹事4名を含む80名の幹事と、本部役員など、計91名が出席しました。1部では、理事長・総長、金子朝子会長の挨拶に続いて同窓会活動、ワーキングネットワーク委員会活動の報告をしました。2部では、2名の幹事がクラス会開催の工夫について話しました。

また、理事長・総長、恩師から寄贈いただいた著書と、昭和女子大学後援の「キエフ・バレエ支援チャリティー BALLET GALA in TOKYO」公演のチケットを抽選でプレゼントし、会場は大いに盛り上がりました。



〈金子会長と新幹事〉



◇ワーキングネットワーク 6月18日(土)、第2回ミーティング

対面とリモートで実施しました。昨年度はリモートミーティング中心だったので、久しぶりにメンバーが光葉同窓会研修室に集まりました。

社会人大学院卒業第1期生が中心となった「福祉共創・消費ネットワーク」が発足しました。ワーキングネットワークに新たな視点、アイデア、パワーが加わることと思います。

金子会長からは「ワーキングネットワーク活性化のためには、支部会、大学、学生との連携が必要です。参加したくなるような楽しい企画を考えることも必要です。」というアドバイスをいただき、「楽しい企画」をキーワードに、意見交換をしました。「今年のワーキングはちょっと違う」を目指して、誰もが、気軽に参加できるイベントを企画していきます。メルマガ読者の皆さま、「こんなことできない?」「やってみたいことがある」という声をお寄せください。

(ネットワーク委員 磯邊まみか)

◇光葉緑奨学金授与式 7月8日(金) 12:20~12:40 学園本部館 3階中会議室

■学園だより

◇図書館特別展「夏目漱石 修善寺の大患前後」

書籍『夏目漱石 修善寺の大患前後：昭和女子大学図書館近代文庫蔵新資料を加えて』（近代文化研究所 2022年2月）の刊行を記念し、近代文庫所蔵の貴重資料「夏目漱石・芥川龍之介・久米正雄往復書簡」の折帖の裏面に貼られている修善寺大患の滞在療治の費用に関する資料三種と関連資料を展示し、明治43年、漱石43歳当時の「修善寺の大患」前後の様相を再現しています。

開催期間：2022年7月20日（水）まで 開催時間：9時～17時（図書館入館は、16時30分まで）

休館日：日曜日・祝日 ※ご来館前に[図書館](#) [開館カレンダー] と [お知らせ] でご確認ください。

開催場所：昭和女子大学8号館3階 図書館コミュニティルーム

入場/観覧：無料 ※[図書館展示案内](#)から見学事前予約をお願いします。

※来館時は、図書館メインゲートのインターフォンで入館をお知らせください。

◇「図書館コレクション展－昭和学園教育の礎－」（2020年3月～5月開催） YouTube で公開中

■ 広げよう光の葉

小山田 みやび さん

2022年 グローバルビジネス学科

「これから行く大学が自分にとって大切な母校だと思えるくらい大学生活を満喫してください」
高校の卒業式前日に学年主任の先生からいただいた言葉は私の大学生活の源になっていたと思います。大学時代は常に忙しく、素敵な仲間と先生に囲まれながら自分たちがやりたいこと、面白いと思ったことを挑戦させていただいた日々でした。みんなにとって楽しい学生生活を送れるようサポートしていきたいと思っていたことから、1年次にクラス委員、2年次ボストン留学では Wing Leader、Student Leader、3年次はゼミ長、TA (Teaching Assistant: ビジネスデザイン学科3年生が1年生の必修科目授業を進行) に立候補、この経験を通して「チームで一つの目標に向かって突き進む楽しさ」を学びました。

高校時代の私は、周りのためになるなら自分のことは後回しにすることが良いことだと思っていました。しかし、大学生活でガラッと変わりました。きっかけはボストン留学でした。「自分を犠牲にする、相手を頼らない行動は、相手からみると自分が信頼されていないのだと思わせてしまう」ことに気づいたので。「何かあったら言ってね」という言葉は社交辞令の場合もあるかもしれませんが、本当にそう思っていて言ってくれているのだと。私は今までその相手の想いを無視してしまっていたのだと気づきました。生きていく中で多くの人と「頼り・頼られ」の関係を持つことで人生が楽しくなるのではないかと思うようになりました。大学3年生の春からはコロナウイルスによって環境は変化したものの、チャレンジ精神は衰えることなく、プロジェクト活動やビジネスコンテストなどに参加しました。夜遅くまでチームで話し合い、自分たちで0から1を生み出す時間はとても楽しく、かけがえのない時間でした。オンラインで徹夜で話し込んでしまい、友達の炊飯器の「ご飯が炊けました」お知らせ音で、一日の朝が始まったことに気づいたこともありました。家でミーティング中にご飯時間になってしまうと、母は私の分を部屋に届けてくれました。いつも私を勇気づけ、支えてくれている家族には感謝の気持ちでいっぱいです。

現在は、社会人一年目として毎日奮闘中です。私の部署では、様々な部門のスペシャリストが集結し新規事業に取り組んでいます。組織がどんどん拡大しているため、組織の環境づくりが必要とされています。「頼る力」を大学時代に身に着けることができ、部署を超えて多くの先輩社員の方から助けられながら仕事をこなしています。ゆくゆくは先輩社員にとって頼れる後輩となれるよう、そして入社してくる後輩には頼られるように精進していきたいと思います。 【End】

メールマガジンを読んだのご感想、ご意見をお寄せください